

「せとうち発見の道」企画展

「病気・医療の歴史と瀬戸内市

～病気・医療をめぐる資料と人物～

2022年8月30日（火）～11月27日（日）

瀬戸内市民図書館

古今東西を問わず、人間にとって、病気は切実な問題で、大きな関心事です。歴史的には、病気を治す、防ぐために、祈りや「まじない」を用いることも行われました。

瀬戸内市に残された病気や医療に関わる資料と、医療に関わる歴史的人物を紹介し、瀬戸内市における健康と医療の歴史を振り返ります。

あわせて、新型コロナウイルス感染症の流行により、影響を受けたことを表す瀬戸内市内の資料を紹介します。

大川式吸入器（おおかわしききゅうにゅうき）

1920～1940年代／旧牛窓民俗文化資料館資料

のどや気管などの治療に使う医療器具です。

ぜんそくや風邪をひいたときなどに、薬液などを霧状にして、口から吸入します。

ホヤ・霧口（きりくち）

噴霧管（ふんむかん）から出た霧を集め、細い口から出します。

噴霧管（ふんむかん）

薬液コップの薬を吸い上げ、蒸気と薬の混じった霧を吹きだします。

薬液コップ

薬液（やくえき）を入れておきます。

ろうと

ホヤについて落ちてくる水滴を集めます。

水受けコップ

ろうとから落ちてくる水を集めます。

アルコールランプ

火をつけて釜の水を熱します。

釜（かま）

水を入れ、熱せられると、蒸気を噴霧管に送ります。

寝のみ（ねのみ）

年代未詳（昭和時代か）

旧牛窓民俗文化資料館資料

病人が寝た状態でも水分や薬が飲みやすいようにした容器です。一般的には「吸い飲み」ですが、この資料には資料名として「寝のみ」と表示されています。左は陶器製、右はガラス製です。



浣腸器（かんちょうき）

年代未詳（昭和時代か）

旧牛窓民俗文化資料館資料



子どもが熱を出したときなどに、肛門から薬剤を入れ、便を出させるために使用されました。

按摩機（あんまき）

年代未詳（昭和時代か）

旧牛窓民俗文化資料館資料

手でハンドルを回し、振動する部分を肩こりなどの患部に当て、マッサージ効果を得るもの。

ラベル表示

「新案特許第三〇四六二號」

「三徳振動按摩機」



老眼鏡（ろうがんきょう）

年代未詳（昭和時代か）

旧牛窓民俗文化資料館資料



印籠（いんろう）

年代未詳

旧牛窓民俗文化資料館資料

旅行などで外出する際に、薬などをに入れて携帯するもの。

表面の図柄に、家紋などが入れられる場合があります。



薬研（やげん）

年代未詳

旧邑久郷土資料館資料

舟形の溝に、生薬など薬材になるものを入れ、車輪のような「薬研車（やげんぐるま）」を前後に動かし、すりつぶすもの。



医療をめぐる歴史的人物

● 医業を営んでいた家

・松原家（豆田）、平井家（福岡）、中島家（北島）、久山家（牛文）、益田家（鹿忍）など

・松原退省（まつばら たいせい）

江戸時代後期に岡山藩の御番医者として江戸に随行し、小児科医としても開業。

・平井秀策（ひらい しゅうさく）

明治初期に種痘を実施。平井秀策とともに種痘を行った横山謙斎（よこやま けんさい、尾張）は、各地の学校で教鞭をとり、校長などもつとめる。

・中島■（なかしま たもつ、■は折に乙）

明治12年（1879）コレラ大流行の際、「予防救治に尽力」したとして、岡山県から感謝状を受ける。

・久山牧村（くやま ぼくそん）

天然痘流行時に牛文村で種痘を実施。明治32年（1899）没。

● 瀬戸内市名誉市民となった医療関係者

・古武 弥四郎（こたけ やしろう）1879－1968 医化学者 名誉市民

大阪大学教授、和歌山医大学長などを歴任。アミノ酸研究等によって文化功労者となる。

・光田 健輔（みつだ けんすけ）1876－1964 元長島愛生園長 名誉市民

初代長島愛生園長。ハンセン病医療行政に尽力したとして文化勲章を受ける。

・日下 連（くさか むらじ）1902－1992 国立岡山病院名誉院長 名誉市民

1946年国立岡山病院長に就任。結核予防事業に尽力し、勲二等旭日重光章を受章。

・平井 方策（ひらい ほうさく）1911－1989 医師 名誉市民

長年にわたる地域医療、保健、文化活動等の地域貢献により、厚生大臣表彰を受ける。

ほかにも、江戸時代に岡山藩家老伊木家に仕えた医者として、上森坦斎・省斎、児玉順蔵、太田杏三などがおり、また、大正14年（1925）に帝国女子医学専門学校（のちの東邦大学）を創立した、長船町飯井出身の額田豊（ぬかだ ゆたか）・晋（すすむ）兄弟などがいます。

【主要参考文献】

邑久町郷土史クラブ編『邑久町人物誌』（1995年、邑久町立中央公民館）

長船町文化財保護専門委員会編『長船町の文化財』（2004年、長船町教育委員会）

邑久町史編纂委員会編『邑久町史通史編』（2009年、瀬戸内市）

炭山嘉伸『額田豊・晋の生涯』（2015年、中央公論事業出版）

岡山県医師会編『備作医人伝』（1959年、岡山県医師会）など

新型コロナウイルス感染症

2019年に、中華人民共和国湖北省武漢市で初めて確認された、新型コロナウイルス感染症（COVIT - 19）は、世界的な大流行となり、日本でも2020年から急激に感染が拡大しました。感染対策として学校の休校や行事の中止・自粛などが相次ぎ、日常生活や経済活動に大きな悪影響を及ぼしました。

2022年の8月末時点では、第7波と呼ばれる感染拡大が続いており、瀬戸内市でも、8月の新規感染者が、1,910人と報告されています。「医療の逼迫（ひっばく）」が危惧され、感染対策が求められる一方、行動制限緩和による経済活動との両立も求められています。

「コロナ禍」関連資料

「コロナ禍」と呼ばれる状況が続くなか、図書館では、関連資料の収集を始めました。

「安心・安全認定証」シールは、瀬戸内市観光協会が、感染症対策ができていると認定した市内の飲食店に対して発行したものです。「シトラスリボンプロジェクト」は、新型コロナウイルス感染者などへの差別をしないよう呼びかける運動です。疫病退散にご利益があるとして、妖怪「アマビエ」が流行し、様々なグッズが作られました。また、感染拡大初期には、マスクが不足したため、「手作りマスク」がさかんに作られました。



疫病除け「元三大師」のお札



「安心・安全認定証」シール



アマビエのマグネット



シトラスリボン



手作りマスク